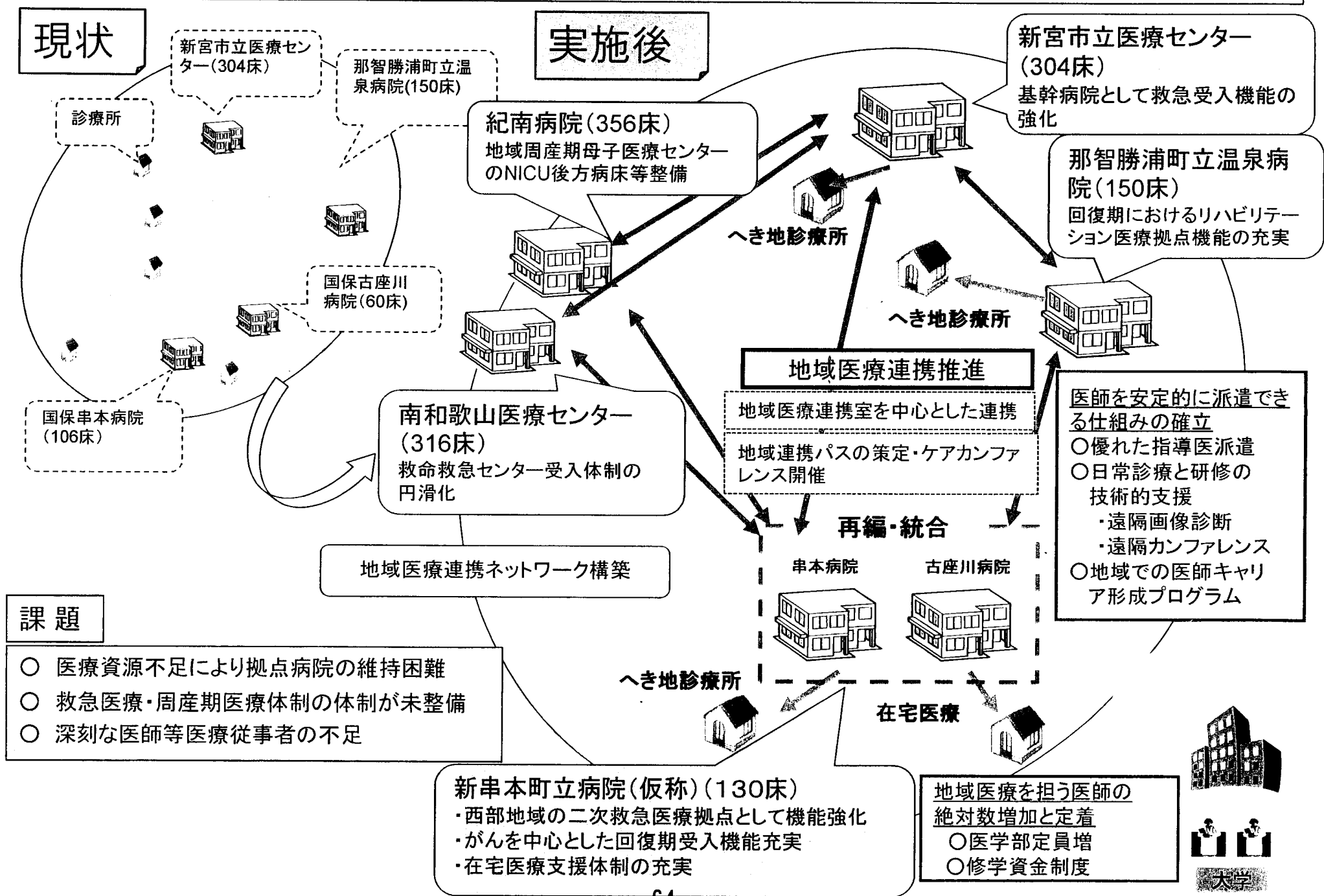
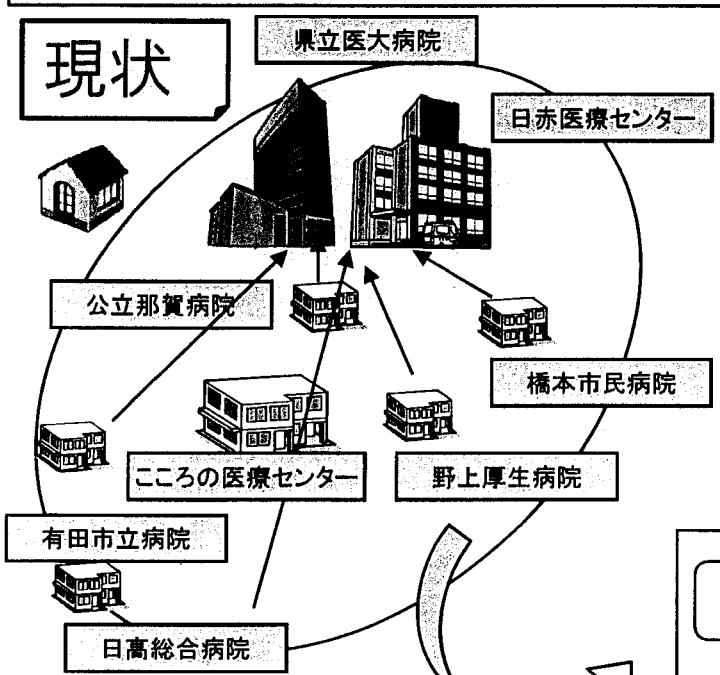


和歌山県地域医療再生計画(紀南地域:医師確保・医療連携に重点化)



和歌山県地域医療再生計画(紀北地域:救急・周産期医療体制に重点化)

現状



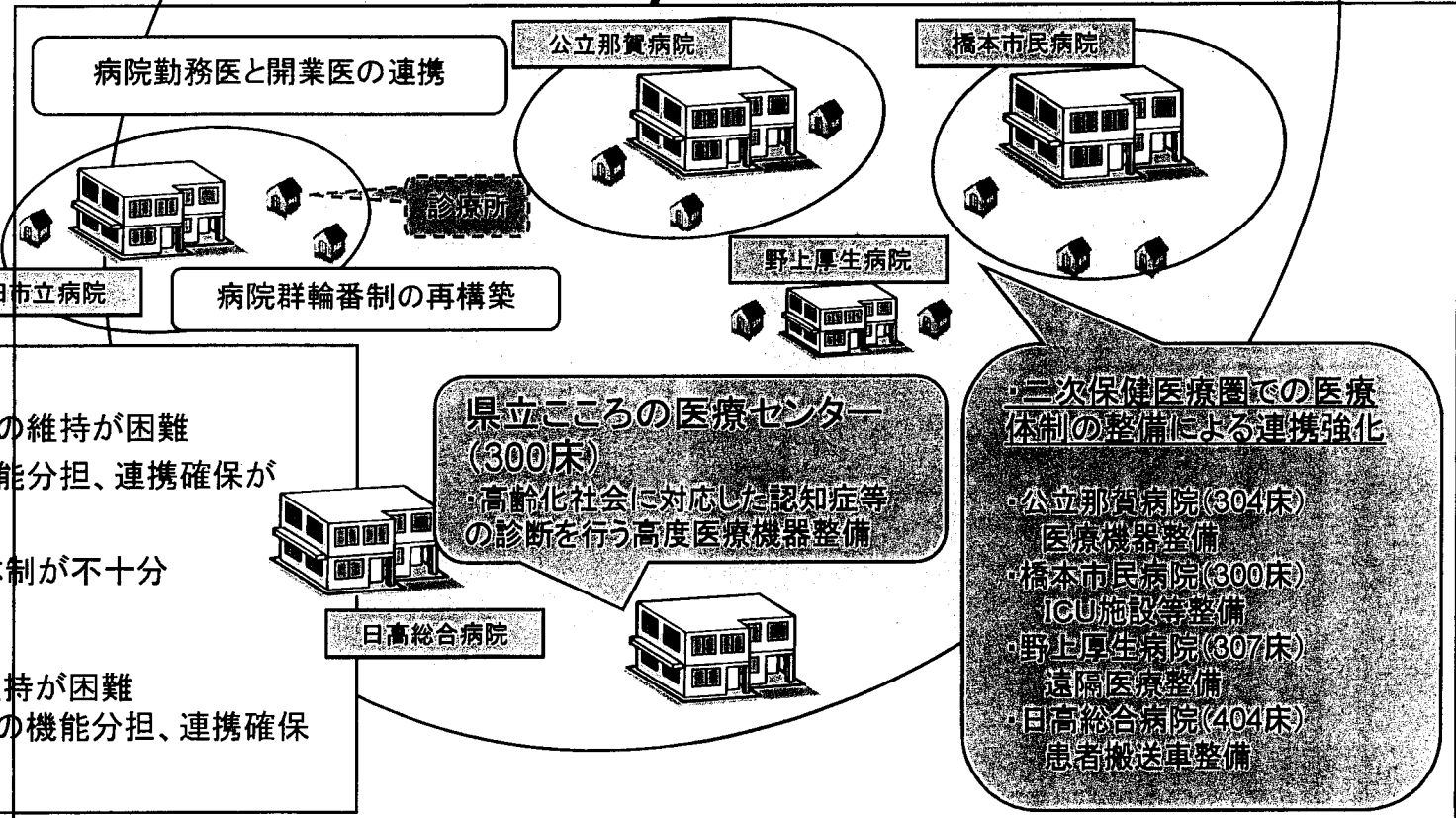
県立医大病院(800床)
 ・救命救急センター救急外来への観察室等の整備
 ・総合周産期母子医療センターのNICU等の増床整備
 ・小児医療センター(仮称)の県内初のPICUの整備

日赤医療センター(865床)
 ・救命救急センター救急外来への観察室等の整備

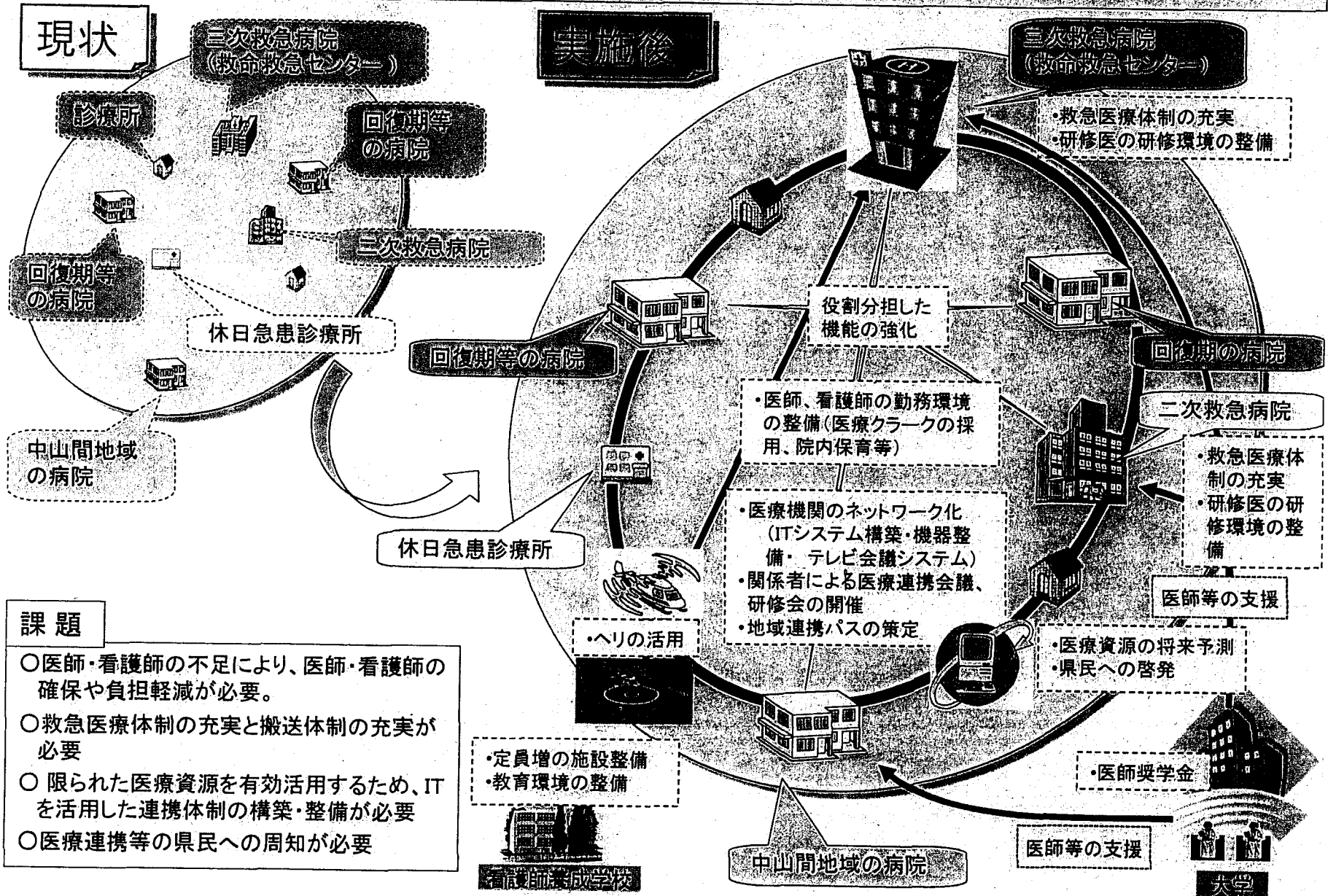
- ・三次・二次・一次救急医療連携体制の確立
- ・拠点病院の救急医療機能強化と機能分担の促進
- ・周産期医療体制の強化と広域的連携体制の構築

課題

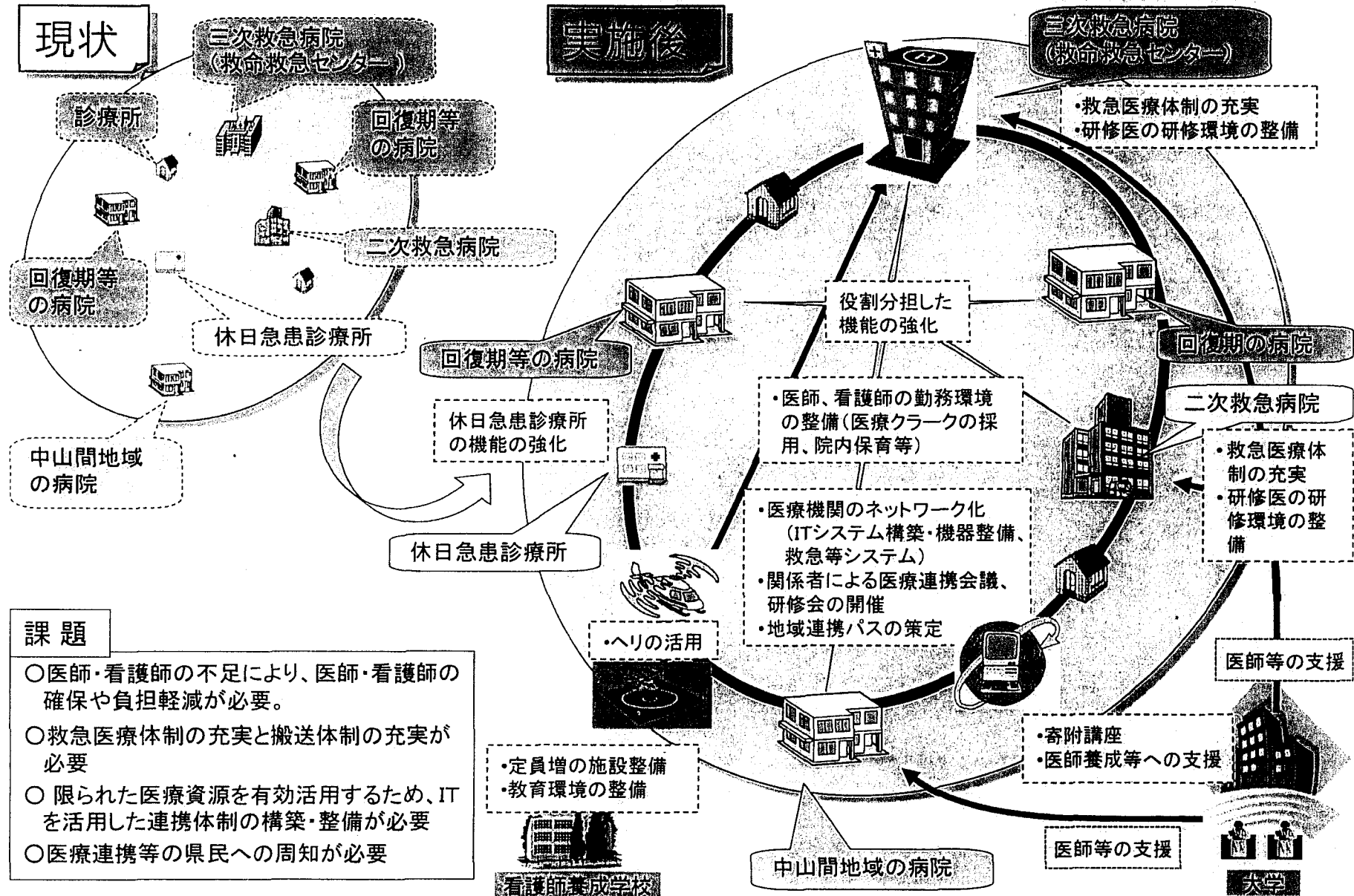
- 〈救急医療連携体制〉
- 医師不足により、中核的病院の医療機能の維持が困難
 - 医師不足により、救急医療機関相互の機能分担、連携確保が不十分
 - 高齢化社会に対応した精神科救急連携体制が不十分
- 〈周産期医療連携体制〉
- 総合周産期母子医療センター医療機能維持が困難
 - 産科医不足により、周産期医療機関相互の機能分担、連携確保が不十分



鳥取県地域医療再生計画(東部:救急医療、医療連携等に重点化)



鳥取県地域医療再生計画(西部:救急医療、医療連携等に重点化)



島根県地域医療再生計画①

《隣接の密接な連携を持つ大田・浜田・益田医療圏》

《医師・看護師の確保とともに医師不足を補うための対策に重点化》

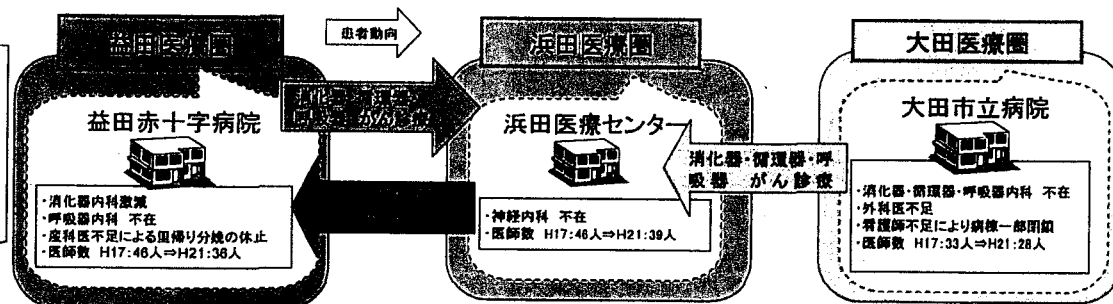
現状

- ◆ 浜田医療圏は浜田医療センター、益田医療圏は益田赤十字病院、大田医療圏は大田市立病院が各医療圏の中核的病院として、地域の医療を支えてきた
- ◆ しかし、医師等の不足により十分な医療機能を維持することが困難
- ◆ 各医療機関が連携・補完しながら、県西部の医療崩壊を食い止めている
- ◆ 交通の便の悪い広範な中山間地域を抱え高齢化率も高く交通弱者が多いため、医療機関の集約化も困難
- ◆ 島根県医療計画では、限られた医療資源を有効に活用し、圏域を越えた医療連携の具体的な取組みを推進
- ◆ 再生計画では、3つの医療圏が連携し、医師等の医療従事者を確保し、地域医療を維持するための施策を実施

(対象医療圏の状況)
 ・人口 183千人
 ・勤務医数の推移(非常勤労働換算)
 H18:272人→ H20:257人(▲15.3人)

課題

- ◆ 医師、看護職員等の医療従事者の不足により、対象地域の各医療機関が担う役割を果たすことができない
- ◆ そのため、医師、看護職員の確保とともに医療用ヘリコプターや遠隔画像診断などマンパワー不足を補うための体制整備を図る必要がある



■ 県外からの医師招聘(派遣元病院への支援)

■ 大学など医療機関への支援

- 寄付講座
- 奨学金の拡充
- 大学における地域勤務医師育成支援
- 研修医の確保・定着対策(国内留学、研修用設備支援)

看護職員確保対策

- 県内進学促進
- 県内就職促進対策
- 離職防止・再就職促進対策
- 助産師確保対策

医師・看護職員供給の推進

圏域の姿

圏域を越えた医療連携体制の維持
 医師・看護職員不足の解消

目標

- ◆ 病院勤務医の充足率 69%から75%へ引き上げ
- ◆ 人数ベースでは22人程度の増
- ◆ 看護職員需給見通しによる各医療圏の需要数を確保 (H22.3月中間取りまとめ)

医師不足を補うための対策

- ITネットワーク化
- ドクターヘリの導入
- 医師事務作業補助者の採用
- 病診連携の推進 (診療所医師の救急への協力)
- 不足診療科のネットワーク会議の開催
- がん診療医師のサポート

勤務医の負担軽減等

島根県地域医療再生計画②

(松江、出雲医療圏を後方病院に持つ、医師不足地域の隠岐、雲南医療圏及び安来市)
 (医師・看護師の確保とともに医師不足を補うための対策に重点化)

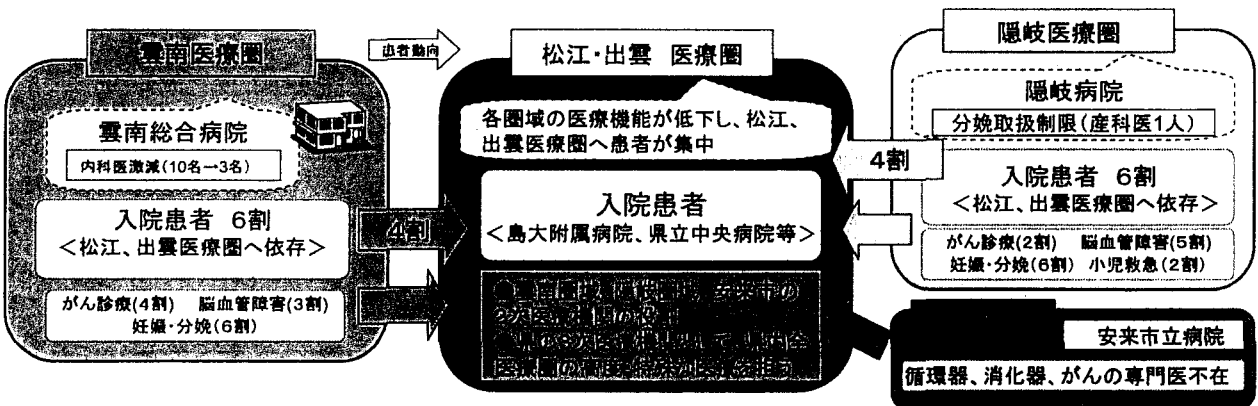
現状

- ◆対象地域の医療機能が低下し、松江、出雲医療圏の3次医療機能を持つ病院との機能分担が行われている
- ◆今後、対象地域の医療機能が更に低下し、多くの患者が松江市、出雲市の3次機能を担う医療機関に集中すれば県全体の3次医療機能に支障
- ◆県全体の医療提供体制を維持するためには、対象地域の自己完結率の維持・向上が必要
- ◆島根県医療計画では、限られた医療資源を有効に活用し、圏域を越えた医療連携の具体的な取組みを推進

課題

- ◆医師、看護職員等の医療従事者の不足により、対象地域の各医療機関が担う役割を果たすことができない
- ◆そのため、医師、看護職員の確保とともに医療用ヘリコプターや遠隔画像診断などマンパワー不足を補うための体制整備を図る必要がある。

(対象医療圏の状況)
 ・人口 214千人
 ・勤務医数の推移(非常勤労働換算)
 H18:134人→ H20:126人(▲8.3人)



県外からの医師招聘(派遣元病院への支援)

大学など医育機関への支援

- 寄付講座
- 奨学金の拡充
- 大学における地域勤務医師育成支援
- 研修医の確保・定着対策(国内留学、研修用設備支援)

看護職員確保対策

- 県内進学促進
- 県内就職促進対策
- 離職防止・再就職促進対策
- 助産師確保対策

圏域の姿

県の3次医療機能を担う松江、出雲医療圏の医療提供体制を確保

対象地域の医療機能を維持

医師・看護職員不足の解消

目標

- ◆病院勤務医の充足率 69%から75%へ引き上げ
- ◆人数ベースでは12人程度の増
- ◆看護職員需給見直しによる各医療圏の需要数を確保 (H22.3月中間取りまとめ)

医師・看護職員の確保

勤務医の負担軽減等

医師不足を補うための対策

- ITネットワーク化
- ドクターヘリの導入
- 医師事務作業補助者の採用
- 病診連携の推進 (診療所医師の救急への協力)
- 不足診療科のネットワーク会議の開催